

Theme Symposium | 生涯スポーツ研究部会 | 【課題B】生涯スポーツは・人・地域社会・産業といかに関連するか

Our way of life and well-being toward a mature society

Chair: Yosuke Hayashi

Thu. Aug 31, 2023 10:10 AM - 12:10 PM RY305 (良心館3階 R Y 3 0 5 番教室)

新型コロナウイルスの蔓延および解決策の模索において、私たちは「ウエル・ビーイング Well-Being」を鍵語として討議を重ねた。スポーツ産業の興隆と人々がよく生きることの実質としての Well-Being の両立は、いかにして可能か。また体育ならびにスポーツにおける Well-Being の実現を企図して子どもたちの福祉に焦点化した議論は、いかなる稔りを私たちにもたらしたのか。こうした問いをめぐる討議の成果として、最終年度の本シンポジウムにて次の三つの問いを興す。

第一に、体育学はスポーツをはじめ身体活動を伴った「健康で文化的な生活」の実質をどう捉えるのか。第二に、いわば「動けるからだ」としての人間の身体はどのような軌跡を辿って育ち、栄え、また衰えるのか。そして第三に、「からだ」が育ち行くために欠かし得ぬ産業活動とそれを支える科学研究は、福祉ある生活としての Well-Being にどのような恩恵を供するののか。

体育学の研究成果により人はどのような暮らしを営み、またいかなる科学に支えられつつ人はその生涯を送るのか。本シンポジウムが講演そして共同討議を通じて目指すのは、体育学の研究成果に裏付けられた Well-Being の実質解明、言うなら「体育とスポーツある善き生き方」の描き出しである。

[生涯スポーツ-SB-1] Humanity in Modernity and Well-Being in the Future from the Perspective of Post-Sports

*Atsuhisa Yamamoto¹ (1. Seijo University)

<演者略歴>

上智大学文学部保健体育研究室を経て、2012年より成城大学に勤務。専門は、スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ学会。2022年よりカルチュラル・スタディーズ学会幹事・大会実行委員長。

近年、スポーツは二つの局面において近代の規範的な「人間」のあり方に対して鋭い問いを提起している。この問いに与えられた概念を「ポスト・スポーツ」と呼びたい。近年、多くのアスリートたちが、BLM（ブラック・ライヴズ・マター）運動や #MeToo、フェミニズム運動の世界的なうねりを引き起こす重要な存在となっている。彼ら／彼女らの動きは、西洋白人男性中心主義やジェンダーの二元性、ヘテロセクシュアリティ、そして健常さの規範を理想的な身体としながらグローバルに君臨してきた近代スポーツへの厳しい異議申し立てと言えるだろう。SNSのような新しいメディア環境に繋がったアスリートたちが、既存の社会における支配的な社会関係を組み替える「ソーシャルなアスリート」として登場している。また、近代スポーツは自然／文化の二元論を維持しながら「人間中心主義」を謳ってきた。しかしポスト・スポーツの時代において、アスリートたちは新しいテクノロジー（機械、非人間）を部分とする身体を形成している。スポーツの身体は、もはや「生身」とその文化的加工・規律訓練を意味するのではなく、機械（モノ、テクノロジー）や情報（データ）や自然環境を組み込んでいる。このような身体のリアセンブリーは、近代の理想的な人間性を越えて、多様な差異を多様なままに接続／非接続する。この視座からスポーツや体育が生み出す“ Well-Being”について考えていきたい。